

## 第2回 四国生物多様性会議 高知グループワーキングレポート

### d. 「河川」 レポート

テーマ：河川

参加者：16名

以下、●はキーワード、・参加者からの意見としてまとめた。

#### ●在来種の保護

- ・四万十源流には放流されたアマゴとは違う在来のアマゴが生息している。
- ・在来種が生息する谷では放流をやめるとともに保護していくことが必要である。また、在来種を絶やさないために養殖も試みている。

#### ●天然アユの保護

- ・放流によって、冷水病が広がった。
- ・ダム放流水による水温低下や濁水の長期化で冷水病を発症しやすくなっている。
- ・産卵場の減少。アユの産卵に適した小砂利の河床が少なくなっている。
- ・社会の仕組みが多様性を保全できないようにできている。
- ・放流によってアユ資源を増殖することが国の方針であったが、これからは産卵場の整備やダム放水の配慮などによってアユの育ちやすい環境を整え天然アユを増やすような努力が必要である。

#### ●土砂流入・濁水（物部川、奈半利川が顕著）

- ・河川への土砂流入により、川が濁りやすくなっている。
- ・ダムに濁水がたまることにより、濁水が長期化する傾向がある。
- ・生きものにとっては、濁水の程度よりも濁水が長期続くことが脅威となる。
- ・土砂流入の原因として、整備（間伐）されていない人工林の増加やシカの食害などが考えられる。
- ・近年の雨の降り方が極端である。源流部に集中豪雨があると山地崩壊が起こる可能性がある。
- ・放棄水田も降水が一気に河川に流れ込む原因となる。
- ・水田の代掻き時に、水を流しっぱなしにしていると濁水が用水路から川へ出る。
- ・耕地整理により、用水路と排水路が分けられたことも、濁水が直接川へ出る原因となる。
- ・流域の森林整備、代掻き時に水を止めるという配慮によって濁水は減少させることができる。
- ・ダムの放流方法を変えることにより、長期濁水を軽減することができる。
- ・長期濁水は海への影響も大きい。

- ・地形や地質も考慮することが必要。

#### ●流域の連携

- ・森林・耕作地・ダムなど個々の対応を考えるのではなく、流域全体での管理を考えていかなければならない。
- ・魚類の移動を妨げるような横断構造物、用水路の管理、ダム管理、水質の向上など、連携して改善する必要がある。
- ・アユの遡上、産卵、降下に影響を与えない流量の確保が必要。
- ・川の流量を確保するためには、電力、農業、上水の利水の仕方を工夫する。
- ・行政の縦割りをやめて、関係部局が連携して流域の土砂移動、濁水問題、維持流量の確保に取り組まなければ解決には至らない。
- ・様々な主体が関わり現場に出て行くことが重要。

#### ●行政間の方針のちぐはぐさ

- ・新堀川には高知県希少動植物に指定されているトビハゼ、シオマネキ、アカメが生息している。これらの生物は保護されなければならない。
- ・一方で、新堀川の上に道路を造る計画がある。これでは上記の希少生物は生息できない。
- ・担当課によって方針が180度違っている。
- ・県としての考え方に統一性を欠く。

#### ●川のつながり

- ・川は源流から海までつながっている。
- ・水のつながりだけでなく、流域の人のつながり、川遊びの継承、生きものの行き来、陸と川のつながりなど、どれも重要である。

#### ●「Kuroson Style」

- ・川の調査をするとき、地元の人と一緒にやる。
- ・調査項目以外の様々な情報（暮らし、川との関わりなど）が地元の人からもたらされる。
- ・調査結果を地元の人と共有することで、川の価値に目覚める。
- ・地元の人が言うナガセエビは梅雨時に集団で遡上するヒラテテナガエビのメスだった！という発見。
- ・四万十川の文化的景観の重要性って？→テナガエビを食べられることに価値がある。

#### ●川の価値の「見える化」

- ・川の生態系には潜在的はお金のフローがある。
- ・例えば、山形県の小国川は年間 22 億円のお金が動いている。
- ・お金の動きが見えるようにすることによって川の価値に気付かせる。
- ・川の価値が見えるようになって、流域の人は行動に出る。
- ・生態系に配慮した川や濁りを出さない田んぼ出作った米はブランドになる。
- ・川の価値が見えることによって、川を守るという仕組みづくりをしていく。

#### ●保全・発展・経済

- ・「命と財産の保護」は免罪符たりうるか？
- ・砂防ダムはどこまで必要か？入らない砂防ダムもあるのではないかな。
- ・「ダムがなかったら水不足になるが？」
- ・平野部の堤防は大切だけど、自然の危険性を忘れさせるのではないかな。
- ・ダムは水資源確保・洪水調節機能を目的として造られているが、ダムだけが水資源確保・洪水調節の手段であったのか。他にも工夫すればできたのではないかな？
- ・今までの開発は視点が足りなかった。多くの視点で見ていくことが大事。
- ・他の方法を考える努力をしてこなかった。
- ・公共工事をしてお金を落とすことが目的になっていたのではないかな。

#### ●対話・自分事につなげる

- ・一般の人の素朴な疑問、例えば「ダムがなかったら水不足になるが？」
- ・一般の人が身近な生活のなかで考えていることが、専門家には届いているか？一般の人が声を上げる場があるか？
- ・専門家、一般の人、地元の人、地元でない人、事業者など立場の違う人々が対話を重ね、問題を自分事としてとらえることが大切。
- ・川は住民のものという意識を持つ。
- ・河川清掃もその手段の一つ。

#### ●子ども

- ・遊びや暮らし方を通じて、子どもに川の生物多様性の大切さを実感してもらうのが、一番手っ取り早い。
- ・高校生の川のアピール（？）

#### ●川の特徴

- ・川の形を残す。直線化、三面張りを見直す。
- ・河畔林の保全

●水草

- ・在来種がなくなる。ひどい状態。

●生物多様性

- ・地域戦略策定に向けて、「生物多様性」の重要性をどうやったら県民にわかってもらえるのだろうか？

以上